

令和7年度

松茂小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○自ら考え、判断し、表現できる子どもの育成

校長

篠原 義正

学力向上推進員

中岡 宏美

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告など、様々な機会を捉え、取組み状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能が身についている児童が多い。 ●基礎的・基本的な知識・技能の活用ができていない児童が多い。 ●「書く」スキルが身につけていない児童が多い。	・単元のまとめや授業の振り返りの際に、学習内容の練習問題を自力で解くことができる。 ・学習で習得した知識を言語活動の中で正しく使ったり活用したりすることができる。	・何が書かれているかを的確に捉えさせるために、教科書や問題にアンダーライン等を入れさせる。 ・単元学習後も定期的に復習プリントやICT等で定着を図ったり、学習した漢字は必ず書かせることを徹底したりする。 ・考えたことや伝えたいことを「書く」機会を多く設けるとともに、基本的な事柄についての個人推敲、相互推敲の時間を確保する。		・基礎的・基本的な知識や技能については、多くの児童に定着が見られる。 ・単元学習後に、AIDリルを活用することで、それぞれ練習問題に取り組むことができた。 ・習得した知識を言語活動の中で正しく活用したり、「書く」スキルとして定着させたりすることには依然として課題が残る。	・「正確に読む力」(読み飛ばしや思い込みをせず情報を読み取る力)を養うため、引き続き教科書や問題文へのアンダーライン引きの徹底、音読、視写に取り組む。 ・AIDリルや練習プリントの反復を継続する。 ・読書活動の推進や、国語の教科書「ことばの宝箱」を活用し、語彙力を高めながら、日常的に正しい言葉を使えるよう指導を継続する。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○理由を明らかにして、自分の意見や考えを表現することができる。 ○多様な学習形態を取り入れることで、自分の考えを表現したり、学びを深めたりすることができる児童が増えた。 ●自分の思いや考えを「書く」ことへの苦手意識が強い児童がいる。	・既習内容を活用して自力解決し、互いの考えを聴き合いながら学びを深めることができる。 ・習得、活用、探求の各場面において、適切な言語活動により表現することができる。	・個に応じた手立てをとりながら、児童自身の書きたいという思いを引き出せるような課題設定を工夫する。 ・自力解決の時間を確保したうえで、多様な学習形態を取り入れ、自分の思いや考えを表現する活動を設定する。 ・国語科における話し合い単元の充実を図るとともに、低学年ではペアトークの活用、中学年ではグループでの多様な意見の出し合い、高学年ではグループ間での意見の比較・検討を目指す。 ・思考ツールの効果的な活用事例について、教師間で情報交換する。		・導入や課題設定の工夫等により、児童が自分の思いや考えを文章に書き出す活動に意欲的に取り組むことができた。 ・理由を明確にして自分の意見を表現することや、「書く」ことへの苦手意識を払拭するには至っていない児童もいる。 ・ICT端末や思考ツールを活用して意見を共有する場面が増え、ペア学習やグループ学習が活性化しているが、話し合いが難しい場面もあった。	・今年度の取り組みを継続する。 ・目的や意図に応じて表現する力をつけるために、ペアトークやグループ活動を継続的に実施し、自分の考えを言葉にする経験を積み重ねる。 ・思考ツールを効果的に活用し、考えを可視化することで、論理的な話し合いを支える。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題に真面目に取り組んだり、興味のあることに意欲的に取り組んだりすることができる。 ●自ら進んで課題を見つけ、最後まで粘り強く取り組むことができる児童とそうでない児童との差が大きい。	・めあての達成に向けて児童自身が自分に合った学習課題を選択することができる。(調整力) ・学習に目的をもって取り組んだり、最後まで粘り強く取り組んだりすることができる。	・ワークシートの工夫や習熟度別の課題プリント等を活用して目指すゴールを変えることで、主体的な取り組みを促す。 ・めあての提示の仕方を工夫するとともに、振り返りの視点を児童に示して何を学んだのかを振り返らせ、次の活動につなげられるようにする。 ・課題やめあてを自分で設定し、工夫して学習しているノートを紹介する等して、自主学習の充実を図る。		・プリントやタブレットを活用し、児童自身が自分に合った学習課題を選択して取り組むことができた。 ・学習の振り返りにおいては、文章に書いたり、○や△などの記号を用いたりすることで、達成度を自己評価する習慣が定着しつつある。 ・自学ノートを2年生以上で取り組み、他学年のノートも参考にすることで、意欲の高まりが見られた。 ・自ら進んで課題を見つけ、最後まで粘り強く取り組む姿勢については、児童間で差が見られた。	・毎時間「めあて」を提示することで、児童が学習の目的を意識できるようにするとともに、「見直す力」や「振り返り」を重視し、学んだことを次につなげる力を養う。 ・振り返りの視点を具体的に示し、学んだ内容や学び方を自覚させることで、自らの学習をコントロールする「調整力」の育成を全校体制で推進する。